



ほしがおか



＜学校教育目標＞

「自主・自律・交流」

発行 北九州市立星ヶ丘小学校

所在地 八幡西区星ヶ丘二丁目7番1号

文責 校長 時川 健二

めざす子ども像 <徳>豊かな心をもった子ども <知>自ら学ぶ子ども <体>たくましい子ども

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

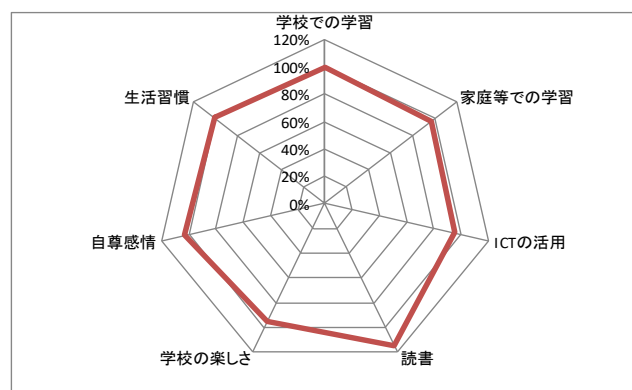
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	話すこと、聞くことに比べて、書くこと、読むことの理解が低い。短答式の問題や記述式の問題の正答率が低い。文字数が限られた中で、伝えたいことを焦点化し、分かりやすく文章に表す力を付けることが重要である。	下回っている
算数	「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域は、ほぼ全国平均並みではあるが、「図形」についての正答率が低い。また、問われていることに対して、条件を満たした記述を行う問題での正答率も、ほぼ全国平均並みである。	同程度である
理科	「エネルギー」や「生命」を柱とする領域に比べて、「粒子」や「地球」を柱とする領域の正答率が低い。「考察」の考え方を定着させ、自分の考えをもち、その内容を記述させる機会を増やしていくことが重要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
- ・1日に1時間以上読書をしている児童の割合が高い。
- ・平日の学校外での学習時間は確保できているものの、自分で計画立てて勉強している児童が少ない。
- ・1日当たり2時間以上テレビゲーム(携帯式や携帯電話等のゲームを含む)をしている児童の割合が高い。
- ・学校での学習では、友達の意見を最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えるなど、話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり、深めたりすることができていると回答した児童の割合が高い。授業での話し合い活動が児童の学びを深めているといえる。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができていると回答した児童の割合が低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・話し合い活動が児童の学びを深めていることが伺えるため、今後も話し合い活動を積極的に取り入れていくようにする。
- ・記述式の解答を求められる問題での正答率が下がる傾向にあることから、国語科を中心に普段の授業でも、自分の考えを端的にまとめて話したり、記述したりする活動の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・読書をする児童が多いことから、今後も読書に親しめるよう、図書館の充実を図っていく。
- ・学年に応じた家庭学習の内容を考え、宿題以外に自主学習にも取り組めるようにする。「自学ノート」の内容を示したり、よい書き方を紹介するなどして、児童の学習意欲を高め、学習習慣の定着を図る。
- ・タブレットを持ち帰り、家庭学習におけるAIドリルの活用を進め、家庭学習の習慣化とさらなる内容の充実を図る。